

Title	はじめに
Author(s)	田中, 耕治
Citation	教育方法の探究 (2006), 9: i-i
Issue Date	2006-03-31
URL	https://doi.org/10.14989/190328
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

はじめに

田 中 耕 治

すでにご承知の方も多いが、まずは悲しいお知らせをしなくてはならない。現在の教育方法学講座の前身に当たるBコース（教育課程講座と教育指導講座によって構成）をそれこそ樹立された鱈坂二夫先生（平成17年5月12日、享年96歳）と、教育指導講座で教鞭をとられた田中昌人先生（平成17年11月18日、享年73歳）が、ご逝去された。

私が本学に入学したのが昭和46年であり、その年は鱈坂先生にとってはご定年までの最後の一年であり、学部長として私たちにご挨拶されたことを昨日のように思い出す。まるで古武士のような鱈坂先生の語り口とそのユーモラスな内容は、いまもなお耳底にしっかりと記憶されている。田中先生にとっては、その年は京大に赴任されて二年目に当たっておられ、その後私は基礎ゼミ、本ゼミを通じて若手教官である田中先生から、学問研究の基礎を厳しくご指導いただくことになった。そのお二人の先生を同じ年に失ったことは、私たちの世代にとって、大きなショックであった。

しかしながら、両先生がBコースに込められた現場重視の発想、現場から学問研究を問い直し、創造していくという姿勢は、しっかりと現在の教育方法学講座に根付いて今日を迎えている。とりわけ、今年度採用された大学院生の成長プログラムである「イニシアティブ」が、理論と実践の融合をメインテーマにしていることは、私たち教育方法学講座に属する者にとって、まさに「時来る」の思いを強くした。両先生の切り拓かれた道を継承し、さらに切磋琢磨して前進させること、そのことこそが両先生の学恩に報いる何よりの方法である。本紀要が、その一助になれば幸いである。